

足
守
ゆ
かり
の
人
物
伝



実父は 足守藩祖・木下家定

幼くして、叔母ねねと豊臣秀吉夫妻の養子となった秀秋。天下人秀吉の後継者候補の一人でしたが、淀殿が豊臣秀頼を生むと立場は急変。秀吉から関白を受け継いだ豊臣秀次（秀吉の姉の子）は切腹に追い込まれ、秀秋自身は小早川家に養子に出されました。秀吉が没すると、その後の日本の行く末を決めた関ヶ原合戦が勃発。豊臣恩顧の大名達も徳川方と反徳川方（石田三成ら）に分かれる中、秀秋の決断は、徳川方。大軍を率いて勝利に貢献し、岡山城主となりました。岡山では城や城下町を拡張、領国の発展に尽くすも、わずか2年で病没。まだ20歳の若さでした。

こ
ば
や
か
わ
ひ
で
あ
き

小早川秀秋

(1582年～1602年)

じ
ゃ
く
ご
ん

寂庵

(1702年～1771年)

近世四大書僧の 一人

江戸時代中期の高僧。
足守藩士の家に生まれ、出家して僧となりました。
中国で訳された仏教の経典ではなく、
原典を極めるための梵語研究で
その名が知られています。
また書の名手として名高く、
良寛等とともに
近世四大書僧の一人と
いられています。



や
す
と
み
さ
い
す
け

安富才助

(1839年～1873年)

※生没年については諸説あり

土方歳三とともに

足守藩出身で新撰組に入隊。
馬術に優れていました。
戊辰戦争では会津から土方歳三と
行動を共にし、函館で土方が
戦死した際は、
その最後を看取った
一人として
知られています。
土方家に訃報を手紙で
知らせたのも
才助だとい
われています。

